

目次 -CONTENTS-

特集 北診療棟開設にあたって.....	1
●レポート 北診療棟の機能紹介.....	2
●最先端医療紹介 高気圧酸素治療.....	3
●薬剤コラム お薬手帳の正しい使い方.....	4
●栄養コラム 高齢糖尿病患者と認知症の関連について.....	4
●連載 医薬のススメ.....	5
●連載 がん治療を受ける患者の看護.....	5
●位置図・医療連携センターの紹介・ 病院へのアクセス・病院駐車場のご案内.....	6

病院の理念と基本方針

あなたとの対話が創る信頼と安心の病院

●基本方針●

1. 患者中心のチーム医療を提供します。
2. 人間性豊かな医療人を育成します。
3. 先進医療の研究・開発・提供を実践します。
4. 地域との医療連携を強化します。

特集

北診療棟開設にあたって 岐阜大学医学部附属病院長 岩間 亨



▲北診療棟開設式

平成25年6月より、医学部附属病院北診療棟が運用を開始しました。

北診療棟は、従前の光学医療診療部および化学療法室を拡充・移設し、また人間性豊かな医療人を育成するための医師育成推進センターが含まれています。



▲光学医療診療部



▲化学療法室

この度、岐阜大学医学部附属病院に新たに「北診療棟」が完成しました。1階は内視鏡治療を実施する光学医療診療部のフロアで、2階は化学療法室のフロアです。

本院が現在の柳戸地区に新築移転してから9年が経過いたしました。この間の医療技術の進歩や診療ニーズの変化は著しく、本院でも既存施設の整備では対応が困難となりました。その最たる部署が光学医療診療部と化学療法室です。

「光学医療」とは胃カメラや大腸ファイバーなどの内視鏡を用いた検査や治療です。近年の光学医療の進歩は目覚ましく、早期の胃がんや大腸がんも大腸ポリープと同様に内視鏡だけで切除できるようになりました。患者数も増加の一途で本院開設時の2倍となっており、数年前からプライバシー保護や医療安全の面で光学医療診療部の拡充が喫緊の課題でした。

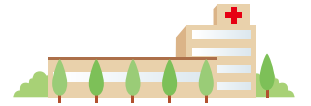
一方の化学療法室は本院が開設された時点では設置されていなかった施設です。がんやリウマチなどの新薬が開発されて治療成績が向上したことにより、患者さんは退院後に通院で点滴治療を継続されるようになってきました。外來の処置室を改装して化学療法室に充ててきましたが、なにせ急ごしえの施設であり、様々な面で限界に達しておりましたが、北診療棟では最新の設備の中で安全に、また広く快適で落ちついたスペースでの診療を受けていただけるものと思います。

なお、3階は新たに組織した医師育成推進センターのフロアです。研修医室と共にスキルラボ、内視鏡外科手術トレーニングセンター、研修会議室が配置されています。本センターでは医学部学生の臨床実習から卒業後の初期研修、専門医取得までの教育、支援を一貫して担当し、将来の地域医療を担う医師を育成していきますので、どうぞご期待ください。



▲医師育成推進センター(研修医室)

レポート 北診療棟の機能紹介



1F

光学医療診療部

光学医療診療部副部長 荒木 寛司

光学医療診療部では、胃カメラ、大腸内視鏡、超音波内視鏡などの検査とそれらを用いた内視鏡治療を行います。

1. 広いスペース

新しい光学医療診療部は、従来の2倍以上の広さがあります。患者さんやご家族の待合スペース、内視鏡検査前の準備スペース、検査後に休養するリカバリー室を広く準備しています。特に大腸内視鏡検査前に2時間以上かけて内服する腸管洗浄剤による前処置用のスペースは30名の患者さんまで同時に使用していただけの広さです。患者さん専用のトイレも男女別に4室、車いす用トイレを1室用意しています。

2. 高度な検査治療

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、消化管出血に対する緊急内視鏡治療、超音波内視鏡（EUS）による胆嚢、膵臓、身体の中のリンパ節の検査や専用の針を用いた検査、治療（EUS-FNA）など高度な検査、治療を提供していきます。カプセル内視鏡、バルーン小腸内視鏡で小腸疾患の検査、治療も行います。

3. 最新の機器

内視鏡検査の機器も今回最新のものに更新しています。特殊な光を用いて拡大観察してがんの精密検査ができる内視鏡検査を行います。全ての患者さんに炭酸ガスを用いた内視鏡を行い、検査後の苦痛を軽減します。超音波内視鏡も最新の機器で行います。

2F

化学療法室

がんセンター長 吉田 和弘

岐阜大学医学部附属病院は岐阜県がん診療連携拠点病院に指定されており、院内がんセンターを立ち上げ、最先端の外科治療、薬物治療、放射線治療や緩和医療を提供しております。外来化学療法室は当初13ベッドで立ち上げられましたが、年間1,450件の外来化学療法室利用が、平成23年度には4,517件と約3倍の利用率となりました。更にごがんに関する新薬の開発治験など特殊な環境での治療が必要となる機会も増えて参りました。

この度、北診療棟に現施設の5倍の広さに、ベッド数も31ベッドに増床し、27のリクライニングシートと

すべてにテレビモニターを完備した化学療法室として完成いたしました。化学療法に特化した診察室を3室と、診察前に薬剤師や看護師のメディカルスタッフなどとの面談を行い、患者さんの精神的なケアや有害事象の確認、服薬指導などより充実できるような相談室を4室設け、待ち時間を極力短縮する取り組みを行います。

ゆとりのある空間に大きな窓が設置され、リラックスした空間でより高いレベルの医療をうけていただくことで、患者さんやそのご家族にも喜んでいただけるよう、スタッフ一同おいっそう努力させていただきます。

3F

医師育成推進センター

医師育成推進センター長 水田 啓介

今年4月から卒後臨床研修センターの機能を拡大する目的で医師育成推進センターが設置されました。同センターは、「臨床実習・卒後研修支援部門」と「専門医研修支援部門」から構成されています。従来の卒後臨床研修センターはこのセンターに包含されます。

本邦の医学教育について、卒前教育である臨床実習と卒後研修との連続性・一貫性がとられていないことから効率のよくない体制であることが指摘されてきました。岐阜大学病院医師育成推進センターは卒後研修と卒前教育との一貫性のある効率・水準の高い教育体制を整え、優れた医療人を育成することを目的として

います。従来卒前教育を担当している医学部と密な連携をとり、地域の医療機関と連携をはかり、診療参加型臨床実習を充実させ、卒前教育の推進をはかります。

専門医研修支援部門は高度な先進医療に対応できる若手医師を育成する目的で、独自の専門医研修プログラムを立案することを目指しています。各診療部門で専門医研修に必要な他領域研修の連携を支援すること、県内の医局に属していない若手医師のキャリア支援のためのプログラム作成、女性医師の再キャリア獲得支援も検討していきたいと考えています。

最先端医療紹介

高気圧酸素治療 (HBO:Hyperbaric Oxygen therapy) ～古くて新しい治療法～

高次救命治療センター 高気圧酸素治療部門

大気圧の2、3倍の圧環境とし、組織での酸素移行性を増加させ、様々な疾患の治療を行う高気圧酸素治療の歴史は古く、18世紀前半から始まり、1900年代半ばに入ってから正式に臨床応用され始めています。今では、これらは確立された治療法として、日本国内においても50年程前より行われており、現在約800台のタンクが稼働しているようです。

2000年代になると、米国において、糖尿病性の壊疽に対して下肢の切断をすることなく温存が可能となり、医療費を抑制できるとの研究結果が出され、この治療を積極的に行っています。

岐阜大学医学部附属病院では、2004年の病院移設時より一人用（第1種）のタンクを備え、高次救命治療センター内で運用を行っています（図1）。



▲図1

当初は年間数える程しか施行されませんでした。徐々に院内でも認知されつつあり、現在では、専門医3名と臨床工学技士が協力し、各診療科の皆様のご協力もあって、2012年度は29人の患者さんに344回施行しており、近く開始より2,000件を超える予定です（図2、図3）。



▲図2



▲図3

当院では、原則として急性期治療での施行ですが、近年の傾向でもあるwound healing（創傷治癒）目的での使用が多いのが特徴です。口腔外科、頭頸部外科、耳鼻咽喉科、整形外科領域の患者さんの利用が多く、難治性の創部感染コントロールや血行不全に伴う創傷の安定化に苦渋した症例において、劇的な回復をもたらした例も多々あります。

なお、最近では激しいエクササイズに伴う筋肉ダメージの回復や様々な怪我に対して、トップ・アスリート達が利用していることや、美容にも効果があることなどが話題になったこともあります。

もちろん、一酸化炭素中毒、腸閉塞、放射線障害、突発性難聴、ガス壊疽などの、従来より行われている治療についても適宜対応をしています。副作用が少ないことも、この治療の特徴です。急性期の診療報酬は1回5,000点です。この「古くて新しい治療法」は現在、世界的にも見直されつつあり、新たに大規模な研究が様々な分野で行われています。経験的に効果ありとされていることに対して、エビデンスを作っている様な景色ともいえます。

当センターとしては、平日の午前中に2例をおおよその定員として行っていますが、重症例、緊急例では、24時間対応できるような体制を構築しています。当院の医療関係者の方であれば、まずは「こんな患者さんなのですが、HBOの効果は期待できますか？」と、いつでも気軽に相談していただければ幸いです（詳細は病院運営マニュアルに記載）。

（文責：高次救命治療センター

豊田 泉・土井智章・山田法顕）

薬剤コラム

お薬手帳の正しい使い方

薬剤部 岡安 伸二



最近、新しく入院された患者さんに「お薬手帳お持ちですか?」とたずねると、カバンの中から取り出して見せてくれる方が多くなったように思います。平成22年の調査では、お薬手帳の普及率は55%まで達しているようです。しかし、お薬手帳を正しく使っている方はそのうちどれくらいいるのでしょうか?

お薬手帳は、患者さん自身が管理して持ち歩く「自分のための薬のカルテ」とお考えください。「今飲んでいる薬の名前を教えてください」と聞かれても、正確に答えられる方は多くはありません。お薬手帳に、薬の内容が記載されたシールを貼ることで、使用している薬が分かるだけでなく、薬の飲み合わせ(相互作用)の確認や、薬の重複服用の防止に効果を発揮します。さらにアレルギー歴や体に合わない薬(副作用歴)も記載することによって、似た薬を使用しないように注意できます。

また、このお薬手帳は2年前の東北大震災のときに大変活躍しました。飲んでいた薬が手元になくても、お薬手帳によって代わりの薬が用意できました。

お薬手帳は患者さんが自身で管理する手帳です。体調の変化や飲み忘れて余った薬、医師や薬剤師に聞きたいことなどを記載しておく、さらに有効に利用できます。

お薬とお薬のみみ合わせ
お薬とお薬のみみ合わせによって、体の中でお薬の相互作用がおこると、効きめが強ったり、弱くなったりする副作用が現れることがあります。複数のお薬を服用する場合には、薬剤師に相談しましょう。

のんでいるお薬はすべて伝える
のみみ合わせの副作用を防ぐには、薬剤師や医師に相談することが大切です。今、飲んでいるお薬をお薬手帳にお知らせください。病院で処方されたお薬のみみ合わせの場合、自己判断で使用せず、薬剤師や医師にお知らせしてください。

のみみ合わせでおこること
お薬とお薬の相互作用は、お薬の効きめを高めたり、副作用を少なくすることができたり、それとは逆に効きめが弱まったり、副作用が生じてしまう場合があります。

お薬と健康食品との相互作用
お薬とお薬のみみ合わせ以外にお薬と健康食品でものみみ合わせがよくない場合があります。健康食品を飲む場合にも薬剤師に相談してください。

栄養コラム

「高齢糖尿病患者と認知症の関連について」

栄養管理室 田村 孝志

近年、糖尿病と認知症の関連について研究が進んでいます。糖尿病の患者では、脳血管障害(脳出血や脳梗塞)を原因とする脳血管性認知症が多いと考えられていましたが、最近の研究では、アルツハイマー病の発症にも関与していることがわかってきました。特に高齢糖尿病患者では、認知症の発症率は2~3倍と考えられています。

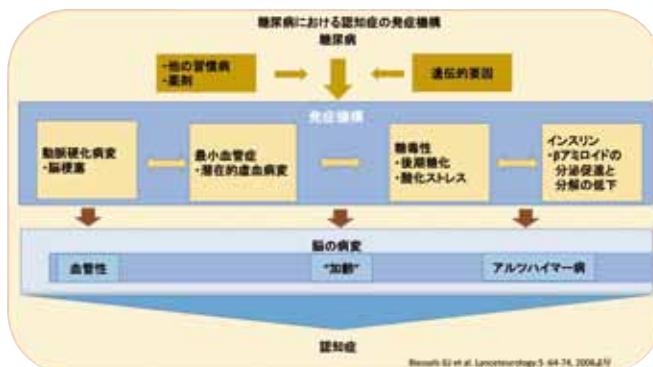
アルツハイマー病は、アミロイドβというたんぱく質が脳に蓄積することによって発症すると考えられています。このアミロイドβはインスリンを分解する酵素によって分解されます。肥満を伴う糖尿病の場合、血糖を下げるために大量のインスリンが分泌されているのに効きが悪く、高血糖になる「インスリン抵抗性」の状態が発生します。このとき、大量のインスリンを分解するためにアミロイドβを分解することができなくなり、脳に蓄積されると考えられています。

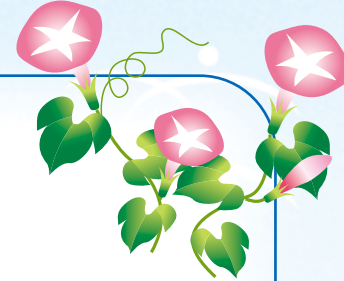
このように、糖尿病患者さんにとって適正な血糖コントロールの重要性は、合併症の発症を防ぐとともに認知症の予防にも有効であるということです。血糖コントロールの指標であるヘモグロビンA1cの値を見直してください。

【血糖コントロールの指標と評価2013年6月1日から施行】
日本糖尿病学会

目 標	ヘモグロビンA1c
血糖正常化を目指す際の指標	6.0未満
合併症予防のための指標	7.0未満
治療効果が困難な際の指標	8.0未満

糖尿病における認知症の発症機構





「酒は百薬の長・・・」

精神神経科 天野 雄平

今年もまた、暑い夏がやってきました。家に帰るとまずは冷蔵庫に直行して、キンキンに冷えたビール！という方も多いかと思います。そこで、今回はお酒と健康についてお話ししましょう。

まず、我々は1時間でどのくらいのアルコールを分解できるかご存知でしょうか。これは個人差も大きいのですが、体重1kgあたり1時間で0.1gが目安とされ、つまり体重50kgの人で5gのアルコール（ビール100ml程度）を分解するのに1時間かかる計算となります。意外に少ないものですね。なお、同じ体重だと一般に体脂肪率や分解酵素の関係で男性より女性の方が分解力が弱く、また、同じ分解力なら体重が多いほど酔いにくくなります（お相撲さんがお酒に強いのはそういう理由もあるわけです）。そして、本邦には毎日3合以上の飲酒をする多量飲酒者が766万人、そのうちアルコール依存症の人が80万人いると言われていますが、きちんと治療を受けているのはその内の4万人と氷山の一角にすぎません。お酒も少量なら動脈硬化の予防になりますが、多量になると各種のがんや肝硬変、膵炎などの消化器疾患、認知症・うつ病といった精神疾患の原因となります。

今年から、従来の抗酒剤と異なり、直接、脳内に作用し、飲酒欲求自体を低減させる新薬「アカンプロサート」が使用可能になるなど、アルコール医療も進歩しており、禁煙

治療と同じく、お酒の悩みも一人で抱え込まず、『まずはお医者さん（医療関係者）に相談』してもらえると良いのではないかと思います。

まとめになりますが、今回のタイトルにもあるように、古来よりお酒の効用を讃えて、「酒は百薬の長」と評されますが、徒然草で兼好法師が述べるように、この言葉には、「されど、酒は万病のもと」という下の句が続くことをお忘れなきよう、適正飲酒（1日1合以内）につとめていただけたらと思います。

*今年の7月19日～20日に長良川国際会議場にて、第35回日本アルコール関連問題学会 岐阜大会が開催されます。20日（土）14時～17時には市民公開講座（入場無料）もありますので、興味のある方は是非ともご参加ください。詳細はホームページ（「アルコール関連問題学会」、「岐阜」で検索できます）をご覧ください。



連載 がん治療を受ける患者の看護

「緩和医療を受ける患者さん」へのメッセージ

がん性疼痛看護認定看護師 仲神 リカ

緩和医療についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。緩和医療は、がんに伴う心と体のつらさを和らげ、「自分らしく」過ごせるように支える医療です。体の痛みはもちろん、精神的なつらさ、社会生活を送る上での困難感にも対応します。今回は緩和医療の利用方法についてご説明します。

1. 緩和医療の役割

終末期に限らずあらゆる時期のつらさや悩みに対応します。病期の段階に関わらず、つらさを緩和する薬剤やカウンセリング等を取り入れた治療・看護の提供を通して、患者さんが自分らしい生活を保てるよう支援します。

2. 相談方法

入院中だけでなく、外来通院中や在宅療養中にも受けることができます。主治医や看護師、相談支援センター、がん患者サロン、緩和医療チーム等に相談しましょう。患者さんが進んでお話すことで、医師や看護師、ご家族もあなたの痛みやつらさを知り、必要な手当を考慮することができます。

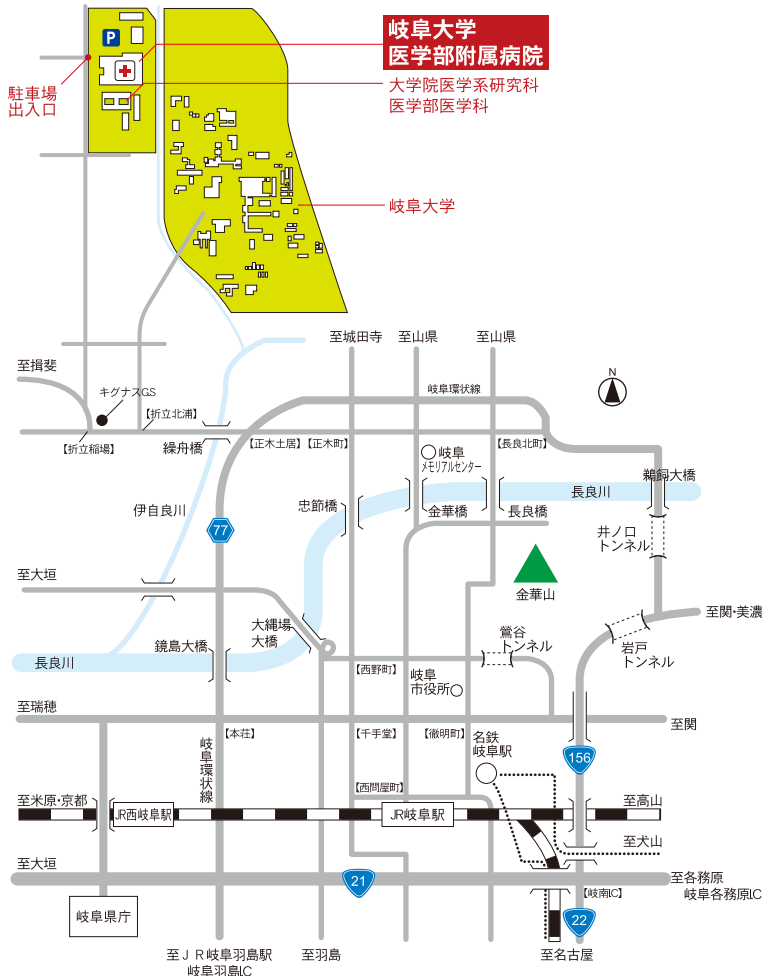
患者さんを支える上でご家族や友人の方が悩まれることがあると思います。治療中に困ったこと等がある場合は、相談支援センター等を利用し、無理をしすぎないようにしましょう。

がん治療や療養にはさまざまな職種がチームとして関わっています。患者さんとご家族もチームの一員として、治療や療養生活について一緒に考えていきましょう。

心と体のつらさを絶対がまんしないで下さい。いつも私たちが見守っています。



●位置図



医療連携センターの紹介

医療連携センターでは、表に示す患者さんやご家族からの相談をお受けしています。

医療連携センターは、病院玄関近くにあり、12人のスタッフがお待ちしております。

相談は、できるだけ事前に電話等で相談日時を予約の上、お越しいただきますようお願いいたします。

その他、医療機関からのFAXを利用した患者さんの診療等予約(午前8時30分から午後5時)も行っています。

相談内容	相談時間等	相談内容等
女性専門相談	予約制(有料)	女性医療スタッフによる健康相談
看護相談	9:00~17:00	患者さんご家族の療養についての相談 在宅看護・退院に伴う相談
医療福祉相談	9:00~17:00	医療費・生活費などの経済的問題や社会福祉制度の相談 療養生活、転院、退院に伴う相談
がん相談	9:00~17:00	がんに関わる医療やがん患者さんの生活についての相談
セカンドオピニオン	予約制(有料)	診断や治療法について主治医以外の意見を聞くことに関する相談
要望、苦情等	9:00~17:00	診療についての要望、苦情等の受付

医療連携センター TEL 058-230-7033 FAX 058-230-7035



病院広報 鵜舟第20号

平成25年7月発行

発行／岐阜大学大学院医学系研究科医学部情報委員会附属病院部会

〒501-1194 岐阜市柳戸1番1 TEL(058)230-6000(代表)

岐阜大学医学部附属病院ホームページアドレス <http://hosp.gifu-u.ac.jp>

◎鵜舟へのご意見ご感想をお待ちしております。 Email hwebmstr@gifu-u.ac.jp

●病院へのアクセス

◇鉄道をご利用の方

JR東海で「岐阜駅」下車

名古屋鉄道で「名鉄岐阜駅」下車

◇バスをご利用の方

岐阜バス

岐阜大学病院線・岐南町線で「JR

岐阜駅前、名鉄岐阜駅前」乗車、岐阜

大学病院下車 所要時間30~40分

(運賃：JR岐阜駅、名鉄岐阜駅から310円)

◇タクシーをご利用の方

JR岐阜駅、名鉄岐阜駅から約20分

(約3,000円)

●病院駐車場のご案内

本院では、約500台が駐車できる外来患者駐車場を用意しています。

【駐車整理料金等】

○外来患者：受診日当日……………無料

○入院患者：入・退院日当日……………無料

◇確認の時間・場所

外来患者さん及び入・退院患者さんは、受診等当日に駐車整理券を以下の時間、場所に提示し、確認を受けてください。

・外来患者：平日8時30分~17時15分

(1階会計窓口)

・入・退院患者：平日8時30分~17時

(1階入退院受付)

・その他の時間 (1階夜間受付)

○一般外来者(面会・お見舞い・付き添い他)

・入構から30分まで……………無料

・入構から30分を超え90分まで……………200円

・入構から90分を超え24時間まで……………200円

に90分を超える1時間までごとに100円を加算した額。ただし、その額が500円を超えることとなる場合は500円

・入構から24時間を超える場合……………500円に24時間までごとに500円を加算した額

なお、入院中に駐車されている場合(入・退院日当日を除く)は、1日あたり500円の駐車整理料金をお支払いいただくこととなります。

(ご注意)

駐車整理料金は、現金または病院内で販売されているサーブ(IC)カードで精算願います。現金での料金精算には小銭が必要となりますので、予めご用意願います。(1万円札・5千円札・2千円札は使用できません。)